

世田谷いちい保育園北ウイングの保護者の皆様へ

2024年度に当園が受審した福祉サービス第三者評価の結果についてお知らせいたします。

※以下は、福祉サービス第三者評価機関である株式会社学研データサービスが作成した評価結果の概要です。なお、評価結果の詳細につきましては、「とうきょう福祉ナビゲーションのホームページ（<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>）からご覧いただけます。

福祉サービス第三者評価結果概要

特に優れている点

各種計画は全職員に配付され日常的に参照し、園全体で方針に沿って一貫した方向性をもって保育に当たっています

毎年度末に全職員が関わって子どもの視点に立って策定している、年度ごとの全体的な計画・指導計画と運営計画は、それぞれ110ページ、150ページにもなる冊子ですが、職員が一人ひとり所持していて、クラス会議などで参照し前期の反省評価をしながら、次期の計画や週日案を作成しています。また年度途中での反省点は翌年度の計画策定時に反映させています。これによって職員が同じ方向性を持って、園の運営や保育に臨むことができています。保護者には、毎月の園だより・クラスだよりなどで計画の内容や行事のねらいについて知らせています。

行事にはストーリー性を持たせ、行事に向けて楽しんで主体的に取り組み、集団でやり遂げた達成感を味わえるようにしています

運動会や発表会は、テーマやキャラクターなどを設定しストーリー性を持たせています。行事を日々の保育の延長線上に位置付け、年齢や成長に合わせて子どもたちは主体的に取り組み、楽しんでます。今年度は特に、日々の保育の中にもストーリーに登場するキャラクターを積極的に取り入れて、子どもが興味や関心をさらに強く持つように環境を工夫しました。発表会当日はクラスごとの集団による表現活動を取り入れ、例えばクイズ形式で答えをつなげていくことによって大きなメッセージを完成させるなど、達成感を味わえるようにしています。

食育活動は年間計画に基づき、0歳児から5歳児まで農園での栽培・収穫、クッキング、地域と連携した取り組みなどを多様に実施しています

食育活動計画は、農園栽培、クッキング・給食手伝い、食育指導、行事食、家庭との連携の各項目について、1年間を4期に分けて策定されています。農耕栽培では、野菜や米などを園の敷地内の畑で栽培収穫し、皮むきなどをして給食で食べています。収穫した野菜を他のクラスにも分けてあげることで、思いやりの気持ちも育っています。近隣スーパーマーケットの出前講座による三色食品群食育指導や、市場価格低下による無償提供プロジェクトに参加してホタテの貝柱を給食で食べるなど、地域と連携した食に対する取り組みも積極的に行っています。

さらなる取り組みが期待される点

地域活動においては積極的な展開を図っていますが、実習生やボランティアの受け入れ人数増を期待します

コロナ禍によって様々な活動が中止や制限を余儀なくされてきましたが、前年度の「5類化」により現在各園で行事やイベントなどの再活動や再活性化が進んでいます。当園においても感染には十分注意を払い、各行事に意欲的に取り組んでいます。高齢者施設の訪問も再開し、さらに近隣園とのグループ交流など積極的な展開を目指す構えです。その中で、学生の実習生やボランティアについて、受け入れ態勢はできていますが思うように参加が得られていない点を園は課題としています。地域活動の一環として、具体的な工夫を期待します。

事業継続計画(BCP)については、今後も計画内容や実行体制などについて点検や改善を進めていくことを期待します

事業継続計画(BCP)は前年度に策定されています。大災害への対応としては、平常時の対応、初動時の対応、地域貢献、事業の縮小・中断、事業の再開の6つの柱で構成され、日常の備えや発生時の安全確保から、事業再開までを見据えた計画内容となっています。これについては年度初めの回覧などで職員に周知を図っていますが、今後も内容理解を深めるとともに、計画自体の見直しや、適切な実践訓練などの検討が望まれます。現実的に災害に遭遇した時に、計画が実効性のあるものとして運用できる体制作りを進めていくことを期待します。

法人の中長期経営計画を踏まえ、園としての取り組みの重点を年度ごとに示してはいかがでしょうか

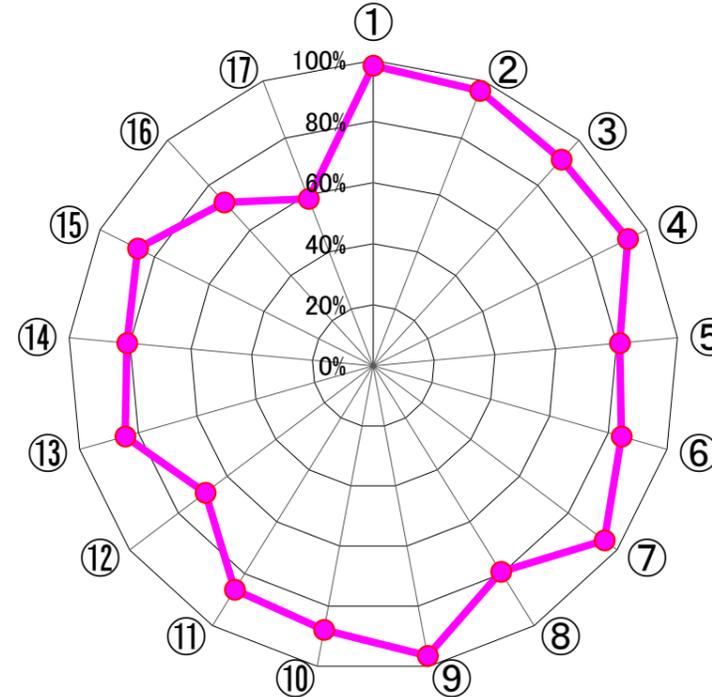
法人にて2021年を起点とした5か年の中長期経営計画が策定されています。その中の園に関しての目標と重点項目を踏まえて、園は単年度計画の「運営計画」を策定し、職員に配付しています。この計画は職員全員で作上げたと言えるほど、職員が策定に深く関わっています。したがって、全職員で共有し、それに向けて一貫した意識付けができる内容となっています。加える点として、中長期計画の目標達成に向けて、園の取り組みの重点を、何らかの形で年度を追って示してはどうでしょうか。より中長期展望に沿って職員の意識付けが図れるでしょう。

利用者アンケート結果概要

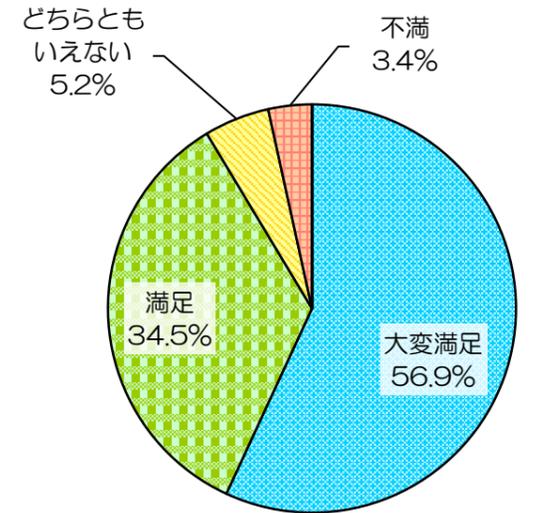
実施期間：2024年12月2日(月)～2024年12月16日(月) 回収率：52.3%

※1月6日到着分まで集計

質問別「はい」の回答率



園に対する総合満足度の結果



〈質問項目〉

- ① 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか
- ② 保育所での活動は、子どもが興味や関心をもって行えるようになっているか
- ③ 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか
- ④ 園生活で身近な自然や社会と十分関わっているか
- ⑤ 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか
- ⑥ 安全対策が十分取られていると思うか
- ⑦ 行事日程の、保護者の状況に対する配慮は十分か
- ⑧ 子どもの保育について、家庭と園に信頼関係があるか
- ⑨ 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか
- ⑩ 職員の接遇・態度は適切か
- ⑪ 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか
- ⑫ 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか
- ⑬ 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか
- ⑭ 子どもと保護者のプライバシーは守られているか
- ⑮ 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか
- ⑯ 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか
- ⑰ 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか

利用者アンケートの結果や福祉サービス第三者評価の結果の詳細内容は、「とうきょう福祉ナビゲーション」のホームページで公表します※。（福祉サービス第三者評価のページからご覧いただけます）
※結果が公表されるまでに時間がかかる場合があります



「とうきょう福祉ナビゲーション」URL
<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>
パソコンまたはスマートフォンでご覧ください

園からのコメント

今回、第三者評価を受審したことにより保護者の視点、職員の視点の双方から園の現状を客観的にとらえることができました。良い点は強化していき、園運営の課題に対しては真摯に受け止め、職員全員で話し合い改善しながら、子どもたち、保護者の方々、職員にとって魅力のある園として運営していきたいと考えております。また地域の方々とも連携を取りながら園を開放して地域に根付いた保育園を目指していきたいと思っております。

【福祉サービス第三者評価 評価機関】

株式会社学研データサービス R&C評価事業部
(認証評価機関番号 機構05-149)

